

「北海道詩人協会賞」を受賞して



二〇二一年に詩人協会のご縁で北海道ポーランド文化協会に入会させて頂いた越野誠です。このたびは北海道詩人協会賞の受賞に伴い、お祝いのお言葉をとたくさん頂きありがとうございました。

第二詩集ということで、第一詩集と比べ人間的に成長している面も見られると私自身読み返し感じております。その成長の糧となりましたのは、皆さまとの出会いが大きかったのではないかと思います。ポーランド訪問経験もない私を温かく受け入れてくださり、各イベントへの招待や会報への寄稿など多くの経験をさせて貰い、成長させて頂いたと感じております。いつかはポーランドの地を訪れたいです。

もちろん、まだまだ皆様に比べますと未熟な部分が多々あり、受賞と言えども今後への期待を込めての受賞と心得ておりますので、変わらぬご指導を頂ければ幸いです。

詩をメインとしておりますが、俳句も短歌も小説も同じように好んで書いております。他の人と比べて自分には書く能力しか残されていないため、マルチに文学に取り組むことが将来へつながっていく道であり、皆さんへの恩返しの手段であると感じております。どうぞよろしく願っています。

終わりに、このたびの第二詩集より、将来への抱負も込め、詩を一篇掲載させて頂きます。「3年後」という未来は光り輝いている。そう願った作品です。

越野 誠(こしの・まこと)

3年後

小篠 真琴

3年後

蒔いた種からのびた芽が

大きな実りをつけているでしょう

大きな葉には近所の子どもがらくがきをして

夜景に勝るイカつけの

漁船の光に似ているでしょう

らくがきは

いつもさくらの桃の花弁と

黄色い帽子をかぶった子どもが

横一列にならんで

しぼんだピグモンみたいな顔をしながら

夜景のイカつけ見守っていく

3年後

花散るときはいつでしょう

散った花なら 散り抜けるのなら

残った枝葉をかるくむすんで

役者に憧れ舞踏をはじめ

枝葉には

いつも樹液があふれていて

散る花はいつか風に巻かれて扇となり

玄関まえの水彩画かな

踊された舞踏が画面の

ように視界でふわついていて

また3年後の時を待つのだ

3年後

かつての私はここにいないでしょう

3年後

私は必ず光りがやき

枝葉も実りも葉のらくがきも

みんなで串だんごにする

お茶をすすって大笑い

そんな3年後が待ち遠しい